


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I 「スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの知識を広く提供する事」
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツ愛着心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 井手町立井手小学校 】

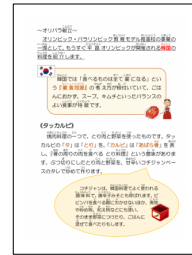
1 実践テーマ	【I・III・IV・V】 「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント」
2 実施対象者	井手小学校全児童；全12学級・207名 ※取組によっては、学年を限定して実施
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間・学級活動等） ② 行事名（ ） ③ その他（給食時間） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	(1) オリンピック・パラリンピックに関する掲示物を通じて、その意義や歴史について知り、オリンピックへの興味・スポーツへの関心を高める。 (2) 世界の料理や我が国の伝統的な料理を給食で提供することにより、オリンピック・パラリンピックが開催された国々の食文化について知る。 (3) 東京大会マスコット小学生投票に参加することで、東京オリンピック・パラリンピックに向けての参画意識を高める。
5 取組内容	(1) オリ・パラ掲示板 ・オリンピック・パラリンピックに関わる情報を児童に広めるための掲示板を設置<2学期以降、順次情報を追加> 「ロゴマークの変遷」「マスコットの変遷」「各国のメダル獲得数」「パラリンピック・クイズ」「東京五輪の新種目」等 

(2) オリ・パラ給食

- ・1・2月に各1回、平昌五輪の開催に合わせて、韓国の料理を取り入れた献立でオリ・パラ給食を実施。
 - ・全校朝礼で栄養教員が、オリ・パラ給食に関連した講話。
 - ・放送委員会による給食時の放送。
- ※1月15日と2月中旬に実施予定



タッカルビ
わかめスープ
韓国海苔



(3) 東京大会マスコット小学生投票への参加

- ①事前学習<1月の全校朝礼で実施>
 - ・オリンピック・パラリンピックの「ビジョン」や「バリュー」、マスコットの意味や役割を説明。
 - 過去のマスコットも紹介。
 - ・今回の3案の紹介映像を見せる。
- ②討論会
 - ・その後の授業や昼学習の時間に、学級討論会を開き、みんなで意見を出し合いながら、学級で1案を決める。
 - ※1月16日～19日の間で実施
- ③結果報告会
 - ・各学級の案について、決定した経緯等を含め、学級の代表者が発表し、井手小学校の投票状況を全体で確認する。



6 主な成果

- ・掲示板を見て、「昔のロゴマークってポスターみたい」「パラリンピックの用具にはいろんな工夫がしてあるんだな」「もっとメダルが増やせるように日本にがんばってほしい」「ほくもいつかオリンピックに出てメダルを取りたい」など、様々な感想が寄せられるなど児童の興味・関心を高めることができた。(1)
- ・事後の児童の様子から、「韓国の料理はもともと大好き。〇〇も給食で食べたい」「もっといろんな国の料理を食べてみたい」「世界の料理もおいしいけど、私は和食が一番好きです」「平昌五輪、日本選手の活躍が楽しみ」など様々な感想が聞かれ、世界の食文化や冬期五輪への関心を高めることができた。(2)
- ・討論会を聞く前から、「ほくは〇〇だからアの案がいい」「一番日本らしいのは〇の案だよ」「ほくが選んだ〇案に決まってほしい」など、活発に自分の意見を口にする様子が見られるなど、東京五輪への関心を高めることができた。(3)

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 児童に分かりやすいテーマを設定し、クイズを取り入れるなど、興味を高めるようにした。(1) • 給食で取り上げる韓国の様子や、平昌五輪の情報も合わせて紹介する等、児童生徒に関心を持たせるために資料を工夫した。(2) • 単なる好き嫌いではなく、理由や意見をみんなで話し合う活動を大切に、ひいては東京五輪への期待感が醸成できるようにした。(3)
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 単に掲示物を見るだけでなく、児童が実際にオリンピック・パラリンピック種目を体験できる機会を広げていく等、能動的な関わりを増やしていきたい。(1) • シリーズ化し多くの国の料理を紹介していきたいが、コストや食材の調達など、様々な課題もあり、給食センターの負担が大きい。また、味のおいしさだけでなく、それぞれの国の文化等にも興味を持たせられる工夫がさらに必要である。(2) • オリンピックの「ビジョン」や「バリュー」と関連づけて選定するのは、本校の児童の実態からは難しかった。(3)
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • (1)(2)については、3年目の取組となっており、継続してきた成果が表れている。今後も2020年まで、内容を工夫しながら続けていきたい。